

# 学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
学力向上		①学習ルールを確立し落ち着いた学習環境を保障し、ICT端末を効果的に活用した基礎基本の定着を図る。 ②学力学習状況調査のデータを活用し、どの教科においても資質・能力を身に付けられる授業創りに取り組む。 ③個別最適な学びと協働的な学びについての理解を深め、主体的・対話的深い学びの実現に努める。
担当	学習指導	

## 学力向上に関わる本校の状況

昨年度学習状況調査（令和7年度5月実施）結果



学校全体としては、ほぼ市の平均と同じか少し下回る結果となった。学年によりばらつきはあるが、知識・技能は定着傾向にある。一方で、思考力・表現力には課題が見られる。

思考力・表現力を伸ばすために、まずは、低学年のうちから、想像力や読解力につながる読書の時間を位置づけていく。そして、授業をはじめ様々な場面で、自らの考えを伝え合う場面を意図的に設定していく。さらに、その精度を学年に応じて上げていきながら、思考力・表現力を伸ばせるよう取り組んでいきたい。

## 今年度の目標

「やってみよう！おもしろそう！いっしょにやろう！」と思える学習活動を展開し、一人ひとりの「わかった」「できた」が積み重なることで、自分の考えを表現する力につなげる。

## 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

【低学年】

- 話し方・聞き方を継続して指導したり、学習準備のルーティン化を行ったりしていく。必要に応じて、デジタルドリルを活用して基礎基本の学習内容の定着をはかる。また、読書タイムを通して読解力を身に着ける。
- 子どもと一緒にめあてをたてることで、一人ひとりが主体的に参加できる授業づくりに取り組む。
- 学年や学習内容に応じて、ワークシートやロイロノートなどの様々な学習方法を体験できるようにする。また、学習に合わせてペアやグループの学習を取り入れて友達と学ぶよさを知る。

【中学年】

- 相手を意識した聞き方・話し方の指導を行う。知識・技能が定着したという実感がもてるように、デジタルドリルに繰り返し取り組む。
- 単元のめあてを明確にした学習計画を子どもとともに立てる経験を積むことで、主体的な学びの姿勢を育てる。
- 自分の目的に合わせて、学び方や場（ペア学習やグループ学習等）、教材などを選べるようにする。

【高学年】

- 安心して自分を表現し、考えを伝えられる環境づくりを心がけ、スキルタイムやデジタルドリルなどを活用して繰り返し学習に取り組む、基礎基本の定着を図る。子どもの見取りにより力を入れて、基礎基本の定着を図る。
- 児童の課題を明確にし、知的好奇心や学習意欲が高められる導入、思考に沿った学習課題の設定や授業展開を工夫していく。教科担任制を推進し、情報を共有するとともに、授業の工夫や改善に生かし、学力の向上を図る。
- より協働的で深い学びにつながるようICTを活用して、思考の整理、考えの共有を図りながら、主体的に説明したり、グループや少人数で教え合ったりする学習を取り入れ、積極的に全体化し表現する場を設定していく。

下半期